

■ 今、私たちの取り組みは全国へと広がりはじめています。

2007年からはじまった“菜の花プロジェクト”も北海道から九州まで全国に広がってきています。大都会東京でも「東京花と油ネットワークプロジェクト」を立ち上げ、家庭からの廃食用油の回収をはじめました。また、鹿児島県霧島市では子育ての事業所で子供たちへの食育とそこから耕作放棄地を開墾し菜の花プロジェクトを開始しています。また、コウノトリで有名な兵庫県豊岡市でも自治体と連携して菜の花プロジェクトやBDF(バイオディーゼル燃料)の事業がはじまっています。

このような中、2011年3月には“ろうきょう菜の花プロジェクト全国ネットワーク”を設立し新たな段階へ進んでいます。そして、これからはF·E·C自給圏の確立をめざしこの取り組みをさらに全国に広げようとしています。

■ 兵庫県／尼崎での菜の花プロジェクトの取り組み

尼崎都市美化推進企業組合では、新しい挑戦として緑にたずさわる菜の花プロジェクトをスタートさせました。

地域の皆さんと、農地に隣接する幼稚園・保育園の園児たちに、菜の花を見て・触れていただこうと思い、菜の花の開花に合わせて菜の花畠を開放。250名の皆さんがあなたに菜の花に興味を持ち参加してくれました。ご高齢の方から小さな子どもたちまでが世代を超えて一つになり、身近に菜の花を見て・触れて・摘み取って楽しんでもらいました。“黄色い菜の花のじゅうたん”が地域の皆さんに感動を与えることをすごく実感する企画となりました。

今後も『菜の花が世界を救う』を心に持ち続け、日本の原風景である黄色い菜の花のじゅうたんを尼崎から各地へ広げ、地域や人々を結ぶことに挑戦していきます。

■ 千葉県／芝山地域福祉事業所・あぐりーん

成田空港内レストランやホテル・機内食メーカーなどから廃食用油を回収し、それをBDF(バイオディーゼル燃料)に精製し、ホテルの送迎用バスや地元農家の農機具へ利用してもらう、地域循環型事業を行なっています。2009年度より廃食用油の回収を始め、BDFの精製・供給を行なっています。今後は、回収先も家庭や他の飲食店などに増やしていく、またトラックや地域のコミュニティ・バスに利用してもらうことも構想しています。

そこでは「ニート・ひきこもり」と呼ばれる社会経験の少なさや自信を失った若者の自立就労支援を行なっていた、労協若者自立塾(厚生労働省委託事業：2009年度で事業終了)での卒塾生などが就労し、失敗を重ねても周りの人に支えられながら自信をつけ、元気に頑張っています。今後は規模を拡大し、もっと多くの若者が働く場にしていくべく、地域協議会なども開催し、地域との繋がりをもっと深めていく取り組みにしていきます。

2011年秋には神崎町で、利根川の河川敷に菜の花プロジェクトを開始しました。今後は、神崎町だけでなく、利根川両岸に広がって菜の花が咲き乱れ、船を渡す構造や2012年度中には圏央道もつながり、観光の拠点としても期待されており、夢をふくらませています。



2011年産 純正なたね油「大地のこころ」

■ 宮城県／大崎バイオマス事業所・あぐりーんみやぎ

みやぎ北若者サポートステーションのジョブトレーニングの機会と農業分野での仕事おこしの模索から菜の花栽培に取り組み、さらに食・農・環境を本格的に事業とするべく、バイオディーゼル燃料精製プラント(BDF事業)が立ち上がりました。事業化するにあたっては、みやぎ生協、JAみどりの、宮城県、大崎市等の様々な方の協力をえて進めてきました。労協センター事業団が事業運営を担い、3つの協同組合が連携し取り組みを進めています。

大崎市には労協が運営する事業所が4箇所あり、就労支援事業・施設管理・介護事業そして、バイオマス事業と多種にわたっています。そして、自然に恵まれた土地と環境が整い、まさしく「菜の花プロジェクトから資源循環型社会へ」のモデル地域を実現可能とするべく挑戦が進んでいます。また、各企業・団体・行政や労協の仲間たちと共に「FEC自給圏」の形成へと進み、この取り組みが全国のワーカーズコープモデル事業となっていくことをめざしています。



提供:NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク